大阪・讃良郡条里遺跡

1　所在地　大阪府寝屋川市高宮・小路
2　調査期間　二〇〇二年（平14）三月～一二月
3　発掘機関　㈶大阪府文化財センター
4　調査担当者　長戸満男
5　遺跡の種類　祭祀遺跡
6　遺跡の年代　縄文時代前期～近世
7　遺跡及び木簡出土遺構の概要

調査地は、生駒山西麓から派生する丘陵地が河内平野へと移行する緩やかな傾斜地に位置している。今回の調査は第二京阪道路建設に伴う一連の調査で、面積は二八七〇㎡である。

（大阪東北部）

調査の結果、縄文時代前期から近世に至る遺構面を確認したが、このうち、奈良時代後期から平安時代初頭の遺構面において、人形・絵馬・斎串・人面土器など祭祀に関連するとみられる遺物を多量に含む河川（溝）跡を検出した。

この河川は、幅五～九ｍ深さ一・三～一・五ｍを測り、五〇〇本を数える杭列からなる二カ所の堰と護岸杭列を備えている。南から北へ向かい、やや西に方向を振りながら蛇行して調査区外へと続くが、今回の調査ではこのうち約二五ｍ分を検出した。堆積土は粗砂や粘土質シルトが激しく攪拌された状態であり、短期間のうちに洪水などによって埋没したものと考えられる。

遺物は、大半が河川内に設けられた堰に引っ掛かった状態で出土した。ほぼ完形に近い墨書人面土器や底部穿孔土器の出土にまじって、馬の頭骨や人形（人面描画のものを含む）・斎串・木簡・絵馬・柄杓・曲物・編物など、木製品の出土が多くみられ、いわゆる都城型「水辺の祭祀」が執り行なわれた状況を想起させる。

この河川より二〇〇ｍ東へ隔てた台地上には、総柱の大型掘立柱建物を有する建物群が確認されている（高宮遺跡）。また、周辺の調査区からは、石製銙帯の巡方・丸鞆、墨書土器・硯の出土が相次いで報告されており、八世紀から九世紀（出土土器は平城Ⅱ期から平安Ⅰ期に該当する遺物が多数を占める）にかけて、官衙的特色を濃厚にもつ建物群、及び古代氏族の起居があったものと推測される。

8　木簡の釈文・内容

(1)　「Ｖ高岡郷尾□□　(82)×16×5　039

(2)　「（無）神の馬（鬣）」　146×196×7　061

(1)は板目材で、頭部を圭頭に作り、上部に左右からの切り込みをもつ。下半部の形状は折損のため不明。表面には計六文字の墨書が認められる。第一文字は切込部中央から書き始められている。高岡郷は河内国には文献上その存在が知られず、『和名抄』では阿波国三木郡・土佐国高岡郡・播磨国神埼郡などにみられる。

(2)は板目材で、裸馬を描く絵馬である。左向きに描かれた雄馬の右前肢横に「神馬」の二文字が認められていた。右下隅に並んだ二つの穿孔をもつことから折敷の転用品とみられる。上部中央にも穿孔がみられ、紐などを通して懸けられていた可能性が高い。なお、この絵馬は、馬具に飾られた白馬を描いた絵馬（参考図）と重なった状態で出土した。

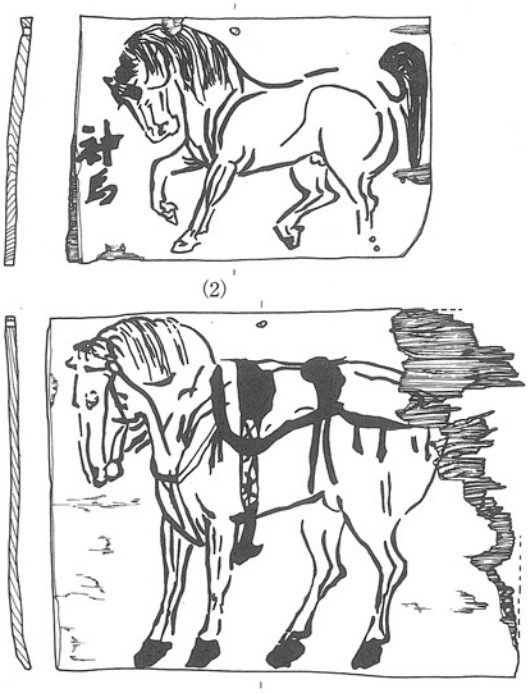
9　関係文献

前田義明・長戸満男・黒須亜希子・島田裕弘「讃良郡条里遺跡・小路遺跡出土の木製遺構について」（財）大阪府文化財センター『大阪文化財研究』二三、二〇〇三年）

島内洋二「出土絵馬小考―讃良郡条里遺跡出土の絵馬について」（財）大阪府文化財センター『大阪文化財研究』二三、二〇〇三年）

（黒須亜希子）

(1)



(2)

（参考）　馬具に飾られた白馬を描く絵馬